

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第 103 回）に係る面談

2. 日時：令和 4 年 10 月 6 日（木）10:00～12:20

3. 場所：原子力規制庁 18 階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

長官官房

森下審議官

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、正岡企画調査官、大辻総括補佐、石井係長、高橋係員

澁谷企画調査官、松田室長補佐、新井安全審査官、横山係長、塩唐松審査係長、

高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所（テレビ会議システムによる出席）

小林所長

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 4名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所 7名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

● 原子力規制庁は、東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、次回（第 103 回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受けた。

➤ スラリー安定化処理設備等の審査状況

✓ スラリー安定化処理の実現性

✓ HIC 保管容量のひっ迫

✓ 放射線業務従事者の被ばく管理

➤ ゼオライト土嚢等処理の検討状況

● 原子力規制庁は上記の内容を確認するとともに、以下のとおりにコメントを行った。

【スラリー安定化処理設備等の審査状況】

✓ 抜き出しを実施した HIC 内のスラリーについて固着等の確認を実施する時期を記載すること。

✓ 模擬スラリーや実スラリーを用いたモックアップにて性能の確認・調整を実施するスケジュールを記載すること。

✓ 流動性が低い状態のスラリーについては、抜き出しきれないのを前提としたフォローアップを考慮すること。

- ✓ 継続的に使用するボックスカルバートについて、どのくらいの期間使用するか説明すること。その上で、その期間を見据えた耐震クラスを考慮すること。
- ✓ グローブボックスの設置を検討している場合は、設置にどの程度期間を有するのか説明すること。また設置に関して守るべき設計方針は何かを追記すること。
- ✓ フィルタープレス機を覆うパネルハウスはどのようなもの想定しているか説明すること。またパネルハウスの洗浄はどのように行うのか説明すること。

【ゼオライト土嚢等処理検討状況について】

- ✓ 閉じ込め機能に係る基準要求のうち、準拠できているとしているが、具体的にどう対応しているか説明すること。
- ✓ 容器の保管設計について、遮へい機能について図も含めて説明すること。
- ✓ 処理全体のフローを記載すること。
- ✓ 容器転倒時の評価を検討すること。

- 東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- スラリー安定化処理設備に関する審査上の論点（規制庁提示）を踏まえた当社回答
- ゼオライト土嚢等処理の検討状況について
- 多核種除去設備等処理水希釈放出設備及び関連施設等の設置工事の進捗状況について
- 福島第一原子力発電所増設雑固体廃棄物焼却設備の状況について
- 福島第一原子力発電所 中期的リスクの低減目標マップ（2022年3月版）を踏まえた検討指示事項に対する工程表（案）